



新年のご挨拶を申し上げます。

MSS保健医療福祉グループ 代表 矢吹甚吾

昨年は、日本人にとって、そして私たち一人ひとりとって大きな試練の年となりました。多くの人が命を失い悲しみ、苦しみました。一方で改めて人と人との絆の大切さを肌身に感じた年でもありました。また、日本人の我慢強さ、助け合いの心、秩序を守る気質を再認識いたしました。

私どもの「石巻ロイヤル病院」も、津波にはみまわれなかったものの大きな地震の被害を受けました。石巻ロイヤル病院の職員の頑張りと多くの皆さんからの温かい援助と協力をいただき、病院の運営を続けることができました。あらためて、お礼申し上げます。

今、国では、「社会保障と税の一体改革」が、議論されています。日本は、世界最速の高齢化で、年金・医療・介護など必要な社会保障費は毎年一兆円以上も自然に増えていくそうです。一兆円というと、一万円札を平積

みにした高さが一万メートルになるそうです。年間増加分だけで、エベレストより高い高さです。持続可能な社会保障制度のための議論が進められていますが、医療・介護の分野の方向付けは、私どもにとって大きな影響をもたらすこととなるでしょう。具体的には、地域の実情に応じたサービス提供体制の効率化・重点化と機能強化を図ることとし、診療報酬と介護報酬を体系的に見直すとしています。

私どもは、早くから、医療と介護を有機的に結合したサービスを地域の皆さんに提供することを目指して来りました。これからも、地域の皆さんから求められることに的確にこたえられるよう進んでゆきたいと考えます。

今年は辰年です。壮大な竜のように天高く舞い上がることができるよう、着実に前進していきたいと思えます。



明けましておめでとーございます

医療法人 啓仁会 理事長 角岡東光

昨年は地震津波に福島原子力発電所の破壊に伴い放射能汚染の恐怖と世界に類を見ない程の災害に明け暮れた年でした。今年は「素晴らしい年であります様に」と願いたいものです。

世の中は私たちの思う様に事が経過するとは思えません。しかし遠い未来であっても明るい世界が開けて欲しいのです。

「なでしこジャパン」の快挙は優勝

という様な結果が ついて来ましたがその経過は 楽な道筋ではありませんでした。毎試合 薄氷を行く様な試合の連続の末の優勝でした。私は 明日からの日本の歩む姿の様に思います。遠い未来であっても 常に前を見つめ 常に努力を怠る事なく 最善の行動を取ることが大切で

す。明るい未来が開ける日を 心から願いたいものです。



「こだまでしうか」

医療法人 昭仁会 北野病院 名誉院長 西久保 国昭

みなさん、こんにちは!!
新しい年になりました。本年も宜しくお願ひします。

昨年は、私にとりまして、日本全体にとりまして大変な苦難の年でした。私は癌の猛攻撃にさらされ、日本は東日本大震災の為、大きな被害をこうむりました。今年は、自他共に復旧に努めて行きたいと思っております。

ところで、せっかく投稿の機会を与えていただきましたので、昨年とも心に留まったお話を皆さんに紹介致します。

3月11日の大震災のあと、テレビを見る度に耳にした詩を覚えておられると思います。普段、詩歌にはあまり縁のない私には、一体何の詩だろうと深く考えたこともありませんでした。ところが、10月のある夜、NHKの番組で大正末期に存在したある女流童謡詩人の物語が放映されていきました。私は風呂に入る用意をしていたのですが、思わず脱ぎ始めた下着を着直し、テレビに吸い込まれる様に見入ってしまいました。詩人の名は「金子みすず」。生まれ育ったのは山口県長門市仙崎と聞いてドキツとしました。私は卒業2年目に長門市の長門病院と云う厚生連の病院に約7カ月間勤務し、覚えたての盲腸の手術を約80例程こなした所だったからです。もちろん約40年前ですから「金子みすず」の事など知る由もありませんでした。

皆さんも震災後テレビでくり返し流されたあの詩「こだまでしうか」「遊ぼう」っていうと「遊ぼう」っていうと「ばか」っていうと「ばか」っていうと「もう遊ばない」っていうと「もう遊ばない」っていうと「ばか」っていうと「ばか」っていうと「ばか」っていうと「こだまでしうか/いいえ、誰でもという/こだまでしうか/いいえ、誰でもが、どこか心の奥や耳の奥に残っていませんか。私は初めこの詩の意味があまり良くわかりませんでした。しかし、テレビで「みすず」の生きた26年間の短い生涯を目のにつきつけられた時、彼女の心からの魂の叫びとして少しは理解できる様になった様な気がします。

彼女の結婚が悲劇の始まりでした。夫から今で云うDVを受け、遊郭通いの末に淋病をうつされ悲惨な生活に追われました。3才の可愛い女の子を連れて離婚をするのですが横暴な夫が愛する子供を取り返しに来る為「みすず」は自分の命を賭して娘を守る為、26才の若さで服毒自殺を図るのです。とても悲しい生涯を送った天才詩人のお話です。ですから多数の犠牲者を出した大震災の被害者に対して、又日本国民に対してテレビコマーシャルの代わりに彼女の魂の叫びを訴え続けたのでしよう。年の始めにあたり一人の詩人の悲痛な心の叫びに感銘を受けましたので、皆さんにお伝えいたしました。

今年も職場内や家庭、その他の場所で色々なトラブルがあるかも知れません。そんな時に「こめんね」と云えば必ず「こだまでではなく」「こめんね」という心の声が返って来るはずですよ。